Activity Report

桝井　睦

活動日：２０２２年5月6日（金）	活動日数：9日目
小学校：Preyboeng　５年生	人数：１１人

１．内容

１３：００～１３：４５　① 前回学習した果物名の復習
② カンボジアの果物名の学習
③ 果物の歌に合わせて果物名を言う
④ ①②の書き取りワークシート

１３：４５～１４：００　休憩

１４：００～１４：４５　⑤ 「There is ／ There are」の復習
（シーケンシャル・ランダム）
⑥ 「on ／ in」の復習
⑦ 「There is ／ There are」の疑問形の学習

２．目的

・① 前回学習した内容の理解度を知る事、及びフルセンテンスでの会話の学習
・② なじみのある果物を英語でいう練習
・③ ①を楽しみながら復習
・④ 前回学習した内容の理解度を知る事、及びフルセンテンスでの会話の学習
・⑤ 疑問文が作れるようになる。疑問文にフルセンテンスで答えられるようになる。

３．使用教材

・① 果物カード
・② 追加果物シート
・③ 果物の名前の歌、スピーカー
・④ 果物名ワークシート
・⑤ 「There is ／ There are」カード（本、カップ、ペン、スピーカー）
・⑥ 「on ／ in」カード
・⑦ 板書のみ

４．実施

① 果物名カードをランダムに見せて全員にこたえてもらい、次に個別に見せて一人一人にこたえてもらいました。
→殆どの学習者が声に出して読んでくれました。殆どの学習者が名前を言えたのですが、今日初めて来た学習者は知ってる果物の名前しか言えず、ちょっと戸惑っているようでした。

② カンボジアの果物の英語名を紹介し、みんなで声に出して学習してもらいました。
→学習者にはなじみのある果物ですが、英語名で言った事はないので、学習者にとってはとても不思議な感覚だったのか、とても集中して英語名を言って

Activity Report

桝井　睦

くれました。

③　ラップ調の音楽にあわせて果物の言う音楽ソースを使い、まず最初に桝井が手本を見せて、その後、学習者に音楽にあわせて果物の名前を言ってもらいました。

→ラップ調の音楽だったのでウケは良かったと思います。それに加えラップの音楽のスピードが徐々に速くなるので、それについていこうとして集中していました。

④　①②のワークシートを実施しました。これまでは、早くできた学習者が遅い学習者ができるまで待っている間に集中力が途切れてしまうので、多量のワードの書き取りを用意し、時間で区切って早くできる学習者と遅い学習者の時間差ができないようにしました。

→この方法は、結果的にうまくいきませんでした。(問題点のところで反省)

⑤　「There is / There are」の復習と再度解説をしました。 その後、There is / There are を使った文をみんなで声に出して言ってもらいました。

→この授業をやっている時に大雨が降りだし、私の説明が聞こえないようで、かなりざわつきました。一部の学習者は、こちらの意図を察して、声に出して読んでくれていました。

⑥　「on / in」の復習と再度解説をしました。 その後、on / in 使った文をみんなで声に出して読んでもらいました。

→この時も雨が降っていて、私の声が聞こえづらかったようですが、on / in をアクションを使って説明したので、⑤よりはみんなが声に出して言えました。

⑦　平叙文から疑問文をつくる法則の説明と、答え方を学習しました。

→疑問文と平叙文の違いは分かっていたようですが、まだオウム返しにしか、Yes、No が言えないので、再度、復習が必要と思われます。

４．学習者の反応（１～５）

①　：4　→　4　→　4

②　：4　→　4　→　3

③　：3　→　4　→　5

④　：4　→　4

⑤　：2　→　1　→　2

⑥　：2　→　2　→　2

⑦　：4　→　3　→　2

Activity Report

桝井　睦

６．問題点

① 毎回、来ている学習者にとっては答えやすい内容でしたが、今日、初めてきた学習者にとっては右も左もわからず、かなり戸惑いがあったようです。
前回、かなり集中してやったのですが、英語名がわからない学習者が若干名いました。
→復習は必要なので、初めて来た学習者については、どのように対応すべきか検討する余地があります。

② クメール語の発音に引きずられて、英語名を明確に発音できない学習者が若干名いました。
→桝井の英語発音の改善と、発音記号を教えるのは難しいので、英語発音に近づけるための方法及び繰り返しの練習が必要と思われます。

③ 今日の授業の中で、一番食いつきが良く、集中してやってもらったので、大きな問題はありませんでしたが、理由は分かりませんが、音楽を聴いているのか否か不明な学習者がいました。 歌という流れがある為、個別に確認する事ができませんでした。
→確認方法は今後の課題。

④ 出来が早い学習者と遅い学習者をつくらない為、時間で区切ってみんなにできたところまでで提出してもらう予定でしたが、殆どの学習者が完全に仕上げたいと意欲を見せ、遅い学習者は休憩時間を割いてまでワークシートを仕上げていました
→与えられたワークシートを完成させたいと思っている学習者の気持ちを事前に察知できず、この方法を実施してしまって、遅い学習者に休憩時間を十分に与えられなかったのは、桝井の落ち度として反省すると同時に、新たな方法を考える必要があります。

⑤ 雨音に説明の声がかき消されてしまうという事態を全く想定しておらず、何も対処できずに授業を続けた事に問題があります。
→他のインターン生の方とこの話題でお話させて頂いた時、そういう時間にはワークシートをやってみてはどうかとのご提案がありましたので、急な降雨の場合にどういうワークシートをやるか検討する必要があると思われます。

⑥ ⑤同様、降雨時の対応について、検討する必要があります。

⑦ 疑問文の作り方の法則を解説しましたが、解説を聞けば既に学校で学習した事を思い出しているようでしたが、まだ、フルセンテンスで答えられる学習者が数人しかいませんでした。
→もう少し学習した教科書の解説に即した解説の方が理解しやすかったのではないかと思います。

Activity Report

桝井　睦

５．改善策

① 初めてきた学習者を余計に当てるなどして、対応すればもう少しその学習者に興味をもってもらえるものと思います。
また学習したのに思い出せない学習者については、まだ復習するのが最善だと思われます。

② 既にしっている類似発音の語彙を示して違いだけを説明したり、もう少し発音練習に時間を割くのが良いと思われます。

③ ノリの悪い学習者でも、楽しめる音楽ソースを研究する必要があります。

④ 現状ではさらに良い策は見つからず、引き続き研究する必要があります。

⑤ 他のインターン生の方の案がベターだと思われるので、どういうワークシートを準備すべきかを検討します。

⑥ ⑤と同じ

⑦ 小学生相手に細々と文法解説ができないので、もっと多くのパターンを用意して練習してもらうのが最善の策ではないかと思います。